

施策6

歯と口腔の健康

歯と口腔の健康は、より長く元気に生活するために基礎的かつ重要な役割を果たしており、健全な食生活の実現や社会生活等の質の向上に欠かせません。そのためにはかかりつけ歯科医で定期健診、プロフェッショナルケア、必要な治療やセルフケアの指導を受けることが必要です。

また歯と口腔の健康のために必要な区民の行動変容を促進するため、効果的な情報提供を行い、歯科保健に関する普及啓発を図る取組みが重要です。

目標

- 歯周病と全身疾患等との関係など歯科に関する知識を有する人の増加
- 補助清掃用具の使用やかかりつけ歯科医をもつ、そこで定期健診を受けるなどの行動変容に至る人の増加
- 学校歯科健診や成人歯科健康診査でフォローされていない20～30歳代に向けた普及啓発や健診等の充実

取組みの方向性

- 推奨される歯みがき剤の使用方法や、歯周病と糖尿病の関係など、歯と口の健康に関する正しい知識を、他機関および関連部署の協力を得て普及啓発することでヘルスリテラシーの向上を図り、行動変容につなげます。
- 各世代が歯科健診を定期的な受けつけづくりを推進し、かかりつけ歯科医での定期健診を受けることの大切さについて普及啓発を進めるとともに、身近な歯科医療機関の情報提供を行い、受診を勧奨します。
- 学校歯科健診や成人歯科健康診査等で定期的な歯科健診の機会を持たない20～30歳代に対するヘルスリテラシーの向上や健診の機会づくりに取り組みます。
- 高齢者の口腔保健に関する普及啓発のための講演会、口腔機能低下予防・悪化防止、改善のための教室等を実施します。

指標

指標名	基準		目標 (R11年度)	出典
	値	年度		
3歳児でう蝕のない者の割合	96.2 (%)	4	増加	健康推進課統計
12歳児で未処置歯のない者の割合	91.0 (%)	4	95.0	学務課統計
40歳以上における歯周炎を有する者の割合	46.6 (%)	4	40.0	成人歯科健康診査

50歳以上における咀嚼良好者の割合	78.1 (%)	4	80.0	特定健康診査
過去1年間に歯科健診を受診した者の割合	47.6 (%)	4	50.6	成人歯科健康診査

主な取組み

事業名	歯科衛生相談室		区分	新規・ 充実 ・継続
			所管課	健康推進課
内容	3歳未満の乳幼児を対象に、歯科健診・相談を行っています。さらに希望者には、健診結果に基づく個別の歯みがき指導等を行い、子育て家庭全体の歯と口の健康づくりに努めています。			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 対象者だけでなく、家族全員の歯と口の健康づくりのために適切な情報提供を行い、定期的な歯科健診の勧奨、保護者を対象とした保健指導を実施します。 3歳児で4本以上う蝕のある歯を有する者の割合の低下を目指します。 			
子ども(0~17歳)	青壮年期(18~64歳)	高齢者(65歳~)	女性	

事業名	成人歯科健康診査		区分	新規・ 充実 ・継続
			所管課	健康推進課
内容	20・25・30・35・40・45・50・55・60・65・70歳および妊婦を対象に、区内協力歯科医療機関で、歯科健康診査および口腔保健指導を実施します。			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 健診結果を踏まえて、適切な歯科治療や保健指導、その後の定期的な歯科健診につながるよう、かかりつけ歯科医の推奨を協力歯科医療機関と連携して行います。 新たに健診を行う20~30代に向けた啓発を行い、口腔ケアに関するリテラシー向上を目指します。 			
子ども(0~17歳)	青壮年期(18~64歳)	高齢者(65歳~)	女性	

事業名	障害者歯科対策事業		区分	新規・充実・ 継続
			所管課	健康推進課
内容	障害者施設通所者を対象に、歯科健診、保健指導等を行います。			
今後の方向性	健診結果を踏まえて、適切な歯科治療や保健指導、またその後の定期的な歯科健診につながるよう、施設ごとの担当歯科医師と連携していきます。			
子ども(0~17歳)	青壮年期(18~64歳)	高齢者(65歳~)	女性	

事業名	保育園口腔健康教育	区分	新規・充実・ <u>継続</u>
		所管課	保育課
内容	乳幼児期からむし歯の早期発見、治療につなげ、健康で丈夫な歯を保っていけるよう保育園等在園児を対象に年2回の歯科検診を実施するとともに、生涯にわたり口腔内を健康な状態に保つ上での乳幼児期の大切さについて、園児とその保護者に理解を促し、知識を高めるため歯科医師による講習会を行っています。		
今後の方向性	乳幼児期における口腔ケアは、歯の疾患予防のほか、規則正しい生活習慣の確立の観点からも大変重要であるため、引き続き実施します。		
子ども（0～17歳）	青壮年期（18～64歳）	高齢者（65歳～）	女性

事業名	歯・口の健康づくり事業	区分	新規・充実・ <u>継続</u>
		所管課	学務課
内容	学校歯科保健推進計画（第三期）に基づき、小学校1年生、3年生、5年生および中学校1年生を対象にしたう歯及び歯周疾患予防指導を実施しています。		
今後の方向性	今後も継続して事業を実施することにより、う歯数の減少や歯周疾患予防を啓発していきます。		
子ども（0～17歳）	青壮年期（18～64歳）	高齢者（65歳～）	女性

事業名	後期高齢者歯科健康診査	区分	新規・充実・ <u>継続</u>
		所管課	国保年金課
内容	75歳を対象に、区内協力歯科医療機関で、歯科健康診査、口腔機能診査および口腔保健指導を実施します。		
今後の方向性	健診結果を踏まえて、適切な歯科治療や保健指導、その後の定期的な歯科健診につながるよう、かかりつけ歯科医の推奨を協力歯科医療機関と連携して行います。		
子ども（0～17歳）	青壮年期（18～64歳）	高齢者（65歳～）	女性

【再掲】

事業名	介護予防教室及び講演会	掲載	P62
		所管課	高齢者福祉課

口腔（オーラル）フレイルについて

- 口腔フレイルとは、嚙んだり、飲み込んだり、話したりするための口腔機能が衰えることを指し、早期の重要な老化のサインといわれています。
- オーラルフレイルが全身の衰えにつながるようになってきており、嚙む力や舌の動きの悪化が食生活に支障を及ぼしたり、滑舌が悪くなることで人や社会との関わりの減少を招いたりすることでフレイル（虚弱状態）に繋がります。
- 固いものが食べにくい、お茶などでむせる、口の渇きが気になる等を感じる場合は口腔機能が低下している可能性があります。口の周りの筋肉を鍛えることで健康な状態に戻すことができます。

歯周病について

- 歯と歯ぐき（歯肉）の隙間（歯周ポケット）から侵入した細菌が、歯肉に炎症を引き起こした状態（歯肉炎）と、歯を支える骨を溶かしてグラグラにさせてしまう状態（歯周炎）を合わせて、歯周病といいます。
- 歯を失う原因の1位が歯周病との調査結果も出ており（公益財団法人 8020 推進財団「永久歯の抜歯原因調査（2018）」）、「かかりつけ歯科医」で定期的な健診を受け、予防を行っていくことが大切です。
- 歯周病の主な症状は歯ぐきの腫れと出血ですが、むし歯と違い、痛みをあまり感じないまま症状が進行するため、注意が必要です。
- 慢性的な歯周病は、歯周病菌やその菌が産生する毒素、炎症反応性物質などが歯肉の毛細血管を経由しあらゆる組織に送られ、全身に悪影響を及ぼします。特に糖尿病は相互に悪影響を及ぼし合っていることが分かっています。